

旧静岡青年会議所

55

基本データ

創立：1954年
静岡県内で3番目、日本で55番目の青年会議所として発足した。

特色・独自の文化

大きなLOMである特徴から、組織力を使っての大規模な事業をたくさん行っていること、そして、組織力の強化のためにも組織化がしっかりと成されていることが挙げられます。特に強固な組織を保つため上下関係を重んじる点（特に卒業予定者制度など）や情報伝達を組織の上から下、下から上に順番に行われている点が特徴だと思います。

事業 青少年育成事業 — JCコミュニティスクール、未来学園

青少年育成事業は旧静岡JC設立当時より永きに渡り、時代に合った様々な形で受け継がれている事業です。
そして、2004年創立50周年記念事業として「JCコミュニティスクール・未来学園」というスクール形式の事業を立ち上げました。約半年間、静岡市内の小中学生を対象に学校では教えてくれないような内容を体験学習として学ぶことを目的に行われました。半年間行われた事業では、社会学習学部により「働くことの意義」を学び、自然環境学部により「郷土の自然」「環境の重要性」を学び地域愛や郷土愛を子ども達の心に育みました。文化芸術学部では「親子の絆」「家族愛」を学ぶため旧静岡JCオリジナルミュージカルを企画・製作・講演しました。「地域の子ども達は地域の大人たち全員で育てて行く。」、静岡JCとして「地域教育」の部分を充実させること、そして、そのシステム作りを運動として展開していくことを視野に入れ実行していきました。

事業 国際交流事業

旧静岡JCは、キャピタルJC（台湾）と姉妹締結をしてました。
台湾キャピタルJCとは1994年、旧静岡JCが創立40周年の記念として姉妹締結しました。
姉妹JCは互いの国、互いのJCの経済・文化等の交流を深め、更には人的交流を深め大きな目的があると同時に、その子弟やそのJCのある町の育成にも役立っていました。
主な事業としては、40周年事業として静岡JCの子ども達が台湾の農場へ行きジュニアキャンプを行っています。また、45周年事業として、キャピタルJCの子ども達と静岡の子ども達が触れ合う場として玉川ジュニアキャンプなどがこの姉妹JCの基行われてきました。そして、40周年記念事業として行われた「地球市民アクションプログラム」では、静岡の子ども達がフィリピンへ行き、フィリピンの子ども達と直接触れ合うことで地元地域の属する市民としてではなく、地球規模の市民であることを感じさせることが出来たと思います。

事業 静岡祭り

静岡まつりは1957年（昭和32年）からはじまった市民のお祭りです。当時は「大御所花見行列」をメインに行われ、静岡JCもJC旗本組として参加していました。その後、音楽大行進、JCおまつり広場、夜の静岡まつりを開催し、静岡まつりに積極的に参加してきました。

1996年（平成8年）、第40回静岡まつりを機に、「まつりを市民の手で運営しよう」と、実行委員会が結成され市民参加型のおまつりへと大きく変わり、「夜桜乱舞」や「駿府登城行列」など、多くの市民も参加し華やかに盛り上がる祭りとなりました。

そして、静岡JCとしても、第40回静岡まつりから「駿府子ども城下町」と名称を改め以前から続いていた子ども達へのお祭り会場設置・運営を続けてきました。また、新しく「駿府紅蓮の大炎上」も始めました。旧静岡JCメンバーが聖歌リレーをイメージして形にしたのが始まりです。旧静岡JCが「紅蓮の大炎上」を行い、静岡まつりを盛り上げ市民に感動を与え続けております。

事業の特色について

特色としては、青少年育成事業に力を入れてきたことが挙げられます。現在も行われている未来学園が始まる前も子供ミュージカルを行ったり、自然を感じることができる事業などたくさん行われてきました。特にキャンプなどの青少年育成事業に参加した大勢の親子から「自然のすばらしさを実感することができ感謝している。」というお言葉を頂戴することがたくさんありました。大きなLOMである特徴から、組織力を使っての大規模な事業をたくさん行っていることが静岡JCの事業の特色の一つと思われます。



静岡JC創立風景



国際交流の風景



青少年育成事業風景



未来学園活動風景



静岡まつり活動風景



50周年記念祝賀会